

第 5 回海外巡検「中国西南恐竜化石の見学旅行」のご案内

この旅では、恐竜化石の宝庫のひとつである中国南部で、最大の恐竜マメンチサウルスの模式標本をはじめとし各種の恐竜を見学し、禄豊の恐竜発掘現場を訪れて化石の探索をします。また、カンブリア紀における多細胞動物の爆発的な進化を考えると、きわめて重要であることから注目を集めている澄江動物群について、実際に化石産地でその産状を観察します。

企画主催：東京地学協会

旅行主催：(株)トラベルパートナーズ(東京都中央区日本橋箱崎町 25 6 KCM ビル)

対 象：地学に興味を持つ一般の方々

旅行先国：中国

旅行日程：2001 年 1 月 13 日(日)～1 月 20 日(日) 7 泊 8 日

- 1 月 13 日(日) 東京(成田)発 15:55(中国国際航空 CA930)上海着 18:20 上海泊
- 1 月 14 日(月) 上海発 08:40(上海航空 FM-541)成都着 11:20
恐竜マメンチサウルスの模式標本を陳列している成都理工大学博物館の見学。成都泊
- 1 月 15 日(火) 成都から自貢(専用バス)自貢恐竜博物館の見学。成都泊
- 1 月 16 日(水) 成都発 12:40(中国西南航空 SZ-4413)昆明着 13:35
昆明市博物館のディロフォサウルスなどを見学。昆明泊
- 1 月 17 日(木) 昆明から禄豊(専用バス)午前中は恐竜発掘現場を見学。午後は禄豊にて恐竜化石を探す。昆明泊
- 1 月 18 日(金) 昆明から澄江(専用バス)澄江動物群の発掘現場(馬鞍山)で化石の産状を観察。中国科学院(帽天山)の研究室訪問。昆明泊
- 1 月 19 日(土) 昆明発 08:00(雲南航空 3Q-4541)上海着 11:00 上海科学技術館の見学。上海泊
- 1 月 20 日(日) 上海発 11:25(中国国際航空 CA929)東京(成田)着 14:55

同行解説者：李 大建(中国科学院国際学术交流センター)・富田幸光(国立科学博物館)・斎藤靖二(国立科学博物館)。ほかに日本から添乗員が同行します。

募集人員：20 名～25 名

旅行代金：303,000 円～298,000 円(最小限の参加人員に達しなかった場合は旅行代金を変更)

・料金に含まれるもの

航空運賃、宿泊料金(2 人 1 部屋)、全行程の食事料金(朝食 7 回、昼食 7 回、夕食 7 回)、現地交通費、博物館入場券代などを含む)全行程 1 人部屋使用の場合は 30,000 円の追加料金が必要。

・ほかに必要な経費

成田空港施設使用料(1人2,040円),中国空港税(中国国内線50円×3回+中国国際線90円×1回=240円 約3,800円),中国入国ビザ代(1人3,000円),渡航手続料(旅行印紙代5年間有効10,000円,査証申請書類作成と取得代行6,300円),旅行傷害保険料

申込締切: 2001年12月10日(月) 査証が必要なため早めにお申し込み下さい。

詳細・参加申込書類の入手方法

参加ご希望の方は、氏名・住所・年齢・電話番号・職業を、郵便・ファクス・電子メールいずれかの方法で、東京地学協会中国恐竜化石見学旅行係までお知らせください。旅行条件などを明記した資料・申込書類一式を委託旅行業者からお送りします。申し込み多数の場合は東京地学協会において抽選の上参加者を決定いたします。

〒102 0084 千代田区二番町12-2 東京地学協会「中国恐竜化石見学旅行」係

Fax: 03 5226 9120

E-mail: tyo-geog@ka2.so-net.ne.jp (サブジェクトに中国見学旅行と明記してください)

ホームページ: <http://www.soc.nii.ac.jp/tokyoge/> でもご案内しております。

秋季講演会のお知らせ

日時: 2001年11月10日(土) 13:15 ~ 15:30

会場: 東京地学協会講堂

講演:

斎藤靖二(国立科学博物館): 砂粒の年代からみた日本列島の地質

砂粒には多様な起源のものが混在しており、よく知られているように、砂粒のサイズ、外形、鉱物組成、化学組成には供給源の地質から風化・運搬されて堆積するまでのプロセスが反映されている。ところが砂粒の年代は、供給源について別の情報を提供してくれる。ここでは、日本列島の砂岩を構成する砂粒の年代と大陸の地質との関係について紹介する。

富田幸光(国立科学博物館): 日本最大の恐竜「鳥羽竜」とその産出意義

1996年夏、大型の恐竜化石が三重県鳥羽市で発見・発掘された。その後4年以上にわたってクリーニングと研究が続けられ、2001年3月に一応の報告書の出版を見た。今年10月にはアメリカの古脊椎動物学会での発表も予定されている。本講演では、「鳥羽竜」と通称されているこの竜脚類恐竜について、その研究結果と化石の産出が意味するところを概説する。

地学クラブのお知らせ

下記により地学クラブを開催いたします。多数ご参加くださるよう、お待ちしております。
なお、講演終了後、1時間ほど講演者を囲み懇談の時間を設けますので、ご自由にご参加ください。

- ・ 11月20日(火) 14:00 ~ 15:30

「世界の石油産業とパワーポリティクス」

石油公団・石油開発技術センターアドバイザー 林 雅雄

地質学を学んだおかげで、たまたま石油会社に職を得て、炭化水素の探査や石油利権取得の最前線に身を置くことのできた演者は、世界で発生する大きな政治的出来事のかなりの部分が、石油に密接に関係していると感じてきた。そのような見方に反対する方も当然いるだろうし、また長い目で見ればそれは全般的な外れかもしれない。しかし、武力を政治力に代えて、パワーポリティクスがまかり通っているのが、石油産業の世界と言っても過言ではないかもしれない。石油を軸にして世の中の動きを見ると、報道されているのとは異なる解釈も成り立つことを伝えたい。

- ・ 12月20日(木) 16:00 ~ 17:30 (引き続き年末懇談会を開催します)

「言語が消えるとき 台湾原住民の言語を例として」

元東京大学文学部教授・現跡見女子大学 土田 滋

世界中で少数民族の言語が消滅の危機に瀕している。そのような死に瀕した言語では、どのようなことが起こるのだろうか？ その言語を話せる人の数が少なくなり、話せる人もやがて思い出せる単語の数が次第に減ってくる。最後まで忘れずに思い出せる単語、つまり忘れ去られることに最後まで抵抗した単語とは、いったいどういうものだろうか？ いくつかの言語で、何か共通する語彙項目があるだろうか？ あるとすれば、それも一種の基礎語彙と言えそうに思えるが、どうだろうか？ これらの疑問を、台湾原住民諸語から二つの言語を例にして考察する。